

第20回（令和3年度第1回） 久留米市セーフコミュニティ推進協議会

《会 議 次 第》

日程：令和3年9月6日（月）～令和3年9月27日（月）

1. 協議事項

（1）2020年度（令和2年度）実績について

- ①各対策委員会の取り組み実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ②その他の取り組み実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

（2）2021年度（令和3年度）取り組み方針（案）について

- ①具体的施策等の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ②各対策委員会の取り組み方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ③その他の取り組み等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

《参考資料》

- 【参考資料1】基本方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 【参考資料2】SC推進自治体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- 【参考資料3】具体的施策（38施策）の個票・・・・・・・・・・ 34

- ・交通安全対策委員会・・・・・・・・・・ 34
- ・児童虐待防止対策委員会・・・・・・ 39
- ・学校安全対策委員会・・・・・・・・・・ 42
- ・高齢者の安全対策委員会・・・・・・ 47
- ・防犯対策委員会・・・・・・・・・・・・ 52
- ・DV防止対策委員会・・・・・・・・・・ 58
- ・自殺予防対策委員会・・・・・・・・・・ 63
- ・防災対策委員会・・・・・・・・・・・・ 68



**みんなで取り組む
安全安心のまちづくり**

久留米市セーフコミュニティ推進協議会 委員名簿

(敬称略・順不同)R3. 8. 1現在

	団体名	氏名
会長	久留米市	大久保 勉
副会長	久留米市	中島 年隆
委員	一般社団法人久留米市交通安全協会	村井 正隆
委員	浮羽地区交通安全協会	石井 勝則
委員	小郡三井地区交通安全協会	光安 勝憲
委員	久留米安全運転管理連絡協議会	永淵 俊毅
委員	久留米商工会議所	本村 康人
委員	久留米南部商工会	松田 シクエ
委員	久留米東部商工会	古賀 幹子
委員	田主丸町商工会	小林 整子
委員	久留米市農業協同組合	甲斐 サエ子
委員	にじ農業協同組合	後藤 マス子
委員	みい農業協同組合	赤司 久美
委員	三瀬町農業協同組合	田中 ヤク子
委員	福岡大城農業協同組合	千代島 和代
委員	公益財団法人久留米市体育協会	佐藤 光義
委員	久留米市私立幼稚園協会	丸山 景子
委員	一般社団法人久留米市保育協会	菊池 良明
委員	久留米市小学校長会	塚本 秀二
委員	久留米市中学校長会	田中 佳幸
委員	久留米市小・中学校PTA連合協議会	平田 美奈
委員	久留米市学童保育所連合会	澁田 由見子
委員	久留米市青少年育成市民会議	野田 憲治
委員	久留米保護区保護司会	石橋 力
委員	久留米市老人クラブ連合会	寺崎 敦子
委員	特定非営利活動法人くろめ地域支援センター	木下 香織
委員	久留米市身体障害者福祉協会	永野 清
委員	特定非営利活動法人久留米市支援運営委員会	古賀 勝子
委員	久留米市女性の会連絡協議会	江上 昭子
委員	久留米市田主丸町地域婦人会連絡協議会	横溝 敏子
委員	久留米市北野女性の会	鐘ヶ江 一枝
委員	城島女性ネットワーク	中島 恵美
委員	久留米男女共同参画推進ネットワーク	近藤 詳子
委員	久留米市民生委員児童委員協議会	綾部 章子
委員	社会福祉法人久留米市社会福祉協議会	内川 裕子
委員	久留米市校区社会福祉協議会連合会	熊本 孝晴
委員	一般社団法人久留米医師会	田中 二三郎
委員	一般社団法人浮羽医師会	宮崎 正樹
委員	一般社団法人小郡三井医師会	田中 泰之
委員	一般社団法人大川三瀬医師会	池田 悟
委員	公益財団法人久留米市生きがい健康づくり財団	吉田 茂
委員	久留米大学	石竹 達也
委員	聖マリア学院大学	日高 艶子
委員	久留米市ボランティア連絡協議会	山村 秀敏
委員	久留米市校区まちづくり連絡協議会	石橋 良光
委員	久留米市防犯協会連合会	大石 淳
委員	うきは防犯協会(田主丸支部)	倉富 義己
委員	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	渡邊 浩二
委員	特定非営利活動法人日本防災士会久留米支部	田島 スマ子
委員	久留米警察署	俵積田 政志
委員	うきは警察署	清末 佳之
委員	久留米広域消防本部	秋吉 弘章
委員	久留米市消防団	水田 信行
委員	久留米労働基準監督署	内田 トヨ子
委員	久留米児童相談所	森本 英明
委員	久留米市教育委員会	井上 謙介
専門委員	一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構	白石 陽子

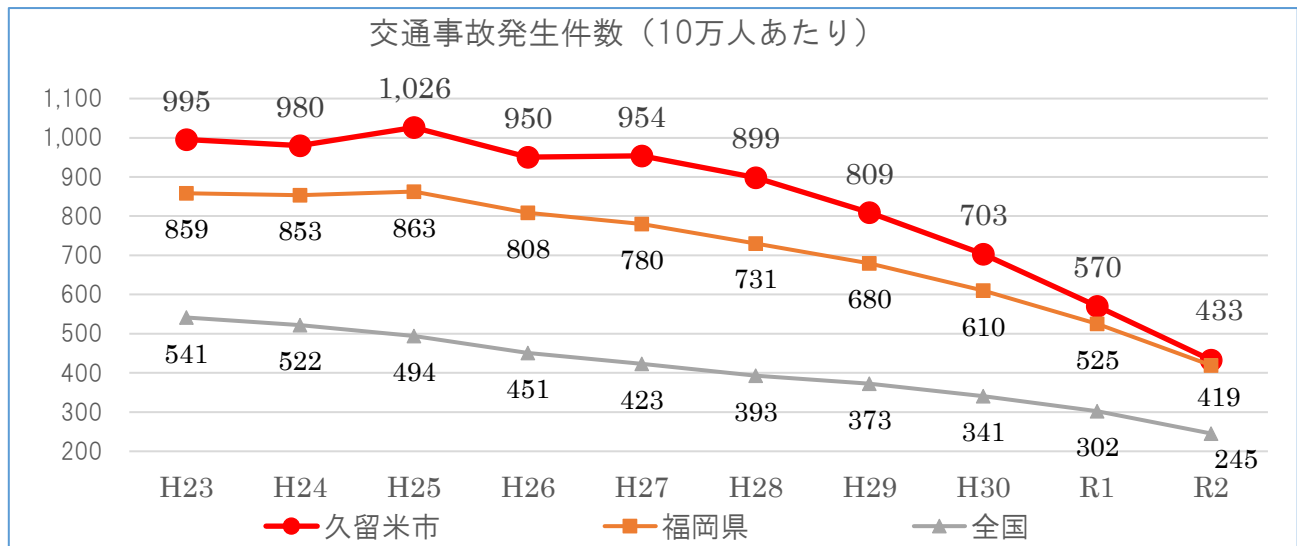
(1)2020年度（令和2年度）実績について

①各対策委員会の取り組み実績

交通安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	1-③	安全安心マップの作成
自転車事故の防止	1-④	交通安全教室の実施
	1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



久留米市の人口10万人あたりの交通事故発生件数を、福岡県、全国と比較したグラフ。平成25年のセーフコミュニティ国際認証取得前は、福岡県の発生件数を大きく上回っていた。令和2年度においても、福岡県を上回っているが、その差は縮まっており、福岡県や全国に比べ、減少の割合が大きくなっている。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

各団体等と連携した啓発活動の実施

- ・啓発キャンペーンでの協力（安全運転管理連絡協議会等）
- ・防犯分野との連携（街頭啓発での協力）
- ・老人クラブ連合会との連携（福祉大会での反射材の配布、リーダー研修会での出前講座）

ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

JR善導寺駅前花壇での交通安全啓発

新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったキャンペーンの代替として、善導寺校区の昭和通り老人会（万寿会）と、久留米筑水高等学校の生徒と一緒に啓発活動を実施。老人会の管理するJR善導寺駅前花壇に、高校生が育てた花を植え、交通安全のメッセージプレートを添えて設置することで、駅の利用者に交通安全を呼びかけた。

エ. 2020 年度で最も積極的に取り組んだ活動

高齢運転者の交通事故防止

- ・老人クラブ連合会が実施した老人クラブ福祉大会で反射材・啓発チラシの配布、老人クラブリーダー研修会で交通安全の出前講座を実施した。
- ・警察等と協働で、交通安全のメッセージを記載した除菌ジェルの配布、交通安全啓発シールを市関連機関や民間企業の窓口に掲示して高齢者へ啓発を行った。

オ. 分野横断的に行っていること

久留米市交通安全対策協議会との連携

交通安全対策委員会の皆様に協議会幹事を兼務していただいております、交通安全対策協議会と連携しながら、ハード・ソフトの両面から取組推進を図っている。

防犯対策との連携

自転車安全利用キャンペーン時に、防犯分野の自転車盗難防止の啓発を行い、また防犯街頭キャンペーン時に反射材を配布するなど、交通安全と防犯分野で連携しながら啓発を行っている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

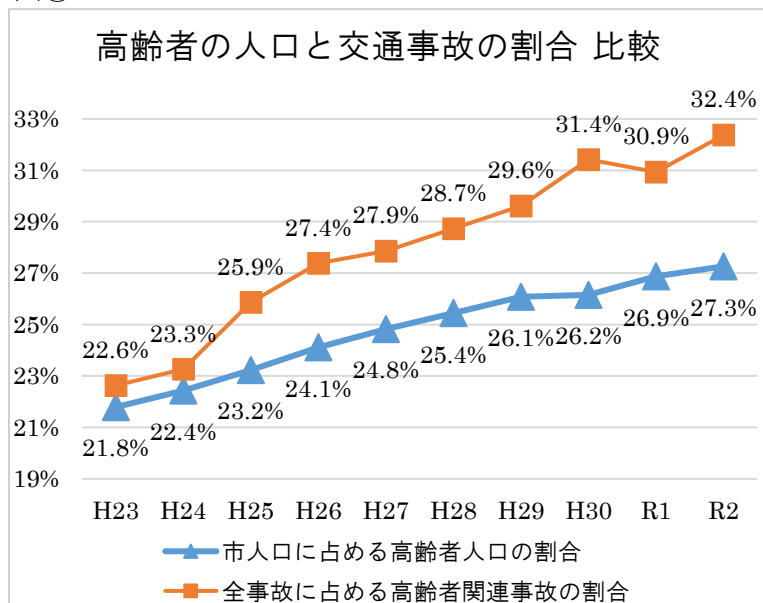
高齢者の交通事故防止

高齢者関連の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、全体の交通事故発生件数に占める高齢者関連事故の割合は3割以上と高く、高齢者が加害者となる事故、被害者となる事故の両面から取り組んでいく必要がある。(図①)

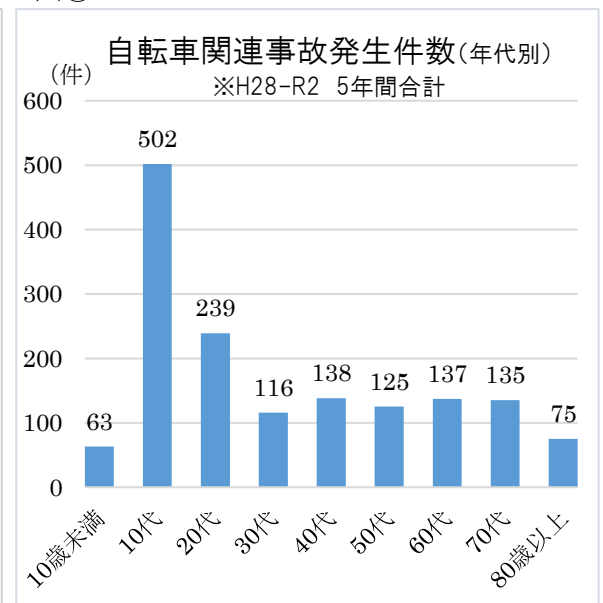
自転車保険加入の促進

自転車関連事故は10代が突出(図②)しているため、中学・高校生の自転車安全利用の啓発を進める必要がある。また、福岡県では条例を改正し、自転車保険の加入を義務化したことから、安全利用と併せて保険加入の促進についても効果的な啓発を行う必要がある。

図①



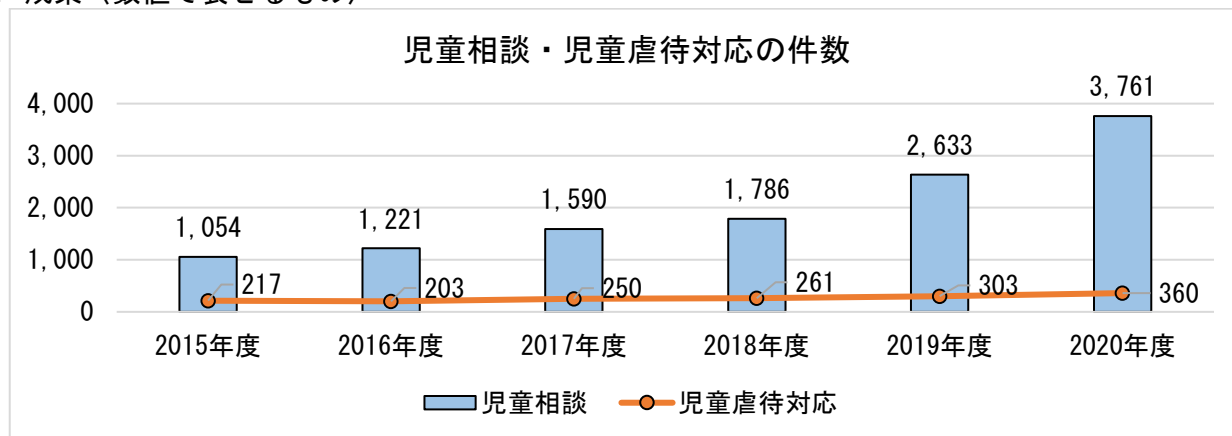
図②



児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

新生児訪問の地域連携

- ・主任児童委員が訪問する事で顔が見える関係となり、子育てサロンへの参加や、子育ての困り事についての気軽な相談につながった。

ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

コロナ禍における啓発活動の実施

- ・児童虐待防止月間のオレンジリボンキャンペーンでは、簡単なオレンジリボン作製マニュアルを準備。ボランティア数が増加した。オレンジリボン作製後は、身近な知り合いに配布したり市の関係窓口で配布したりするなどの啓発活動を行った。

エ. 2020年度で最も積極的に取り組んだ活動

啓発活動における各団体との連携

- ・「面前DV防止」と「体罰をしない子育て」をテーマに市役所で、市（家庭子ども相談課）、久留米警察署、うきは警察署、久留米児童相談所とチラシ等の配布を行った。また、10月から、予防接種セットへのチラシの同封を開始し、出生後の保護者への啓発を行った。
- ・「体罰をしない子育て」のパネル展示及び子育て支援機関への講座を実施した。

オ. 分野横断的に行っていること

要保護児童対策地域協議会との連携

- ・警察や児童相談所などの23の関係団体で構成する要保護児童対策地域協議会の代表者会議や実務者会議等を通して、児童虐待防止の取り組みを行っている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

「赤ちゃんふれあい体験事業」のコロナ禍での実施

- ・コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2021年度も赤ちゃんとは直接ふれあう体験の実施は難しい。

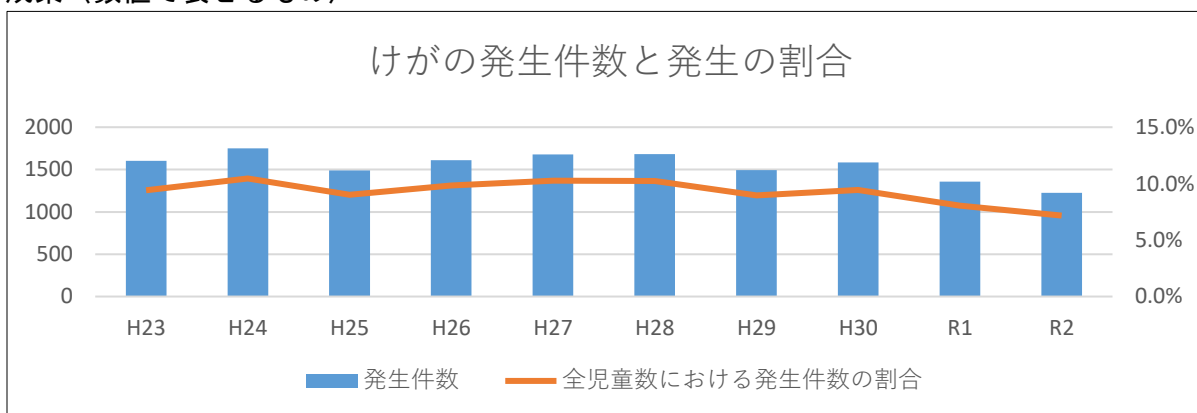
事業の効果的・効率的な実施における課題

- ・短期、中期、長期指標について、児童虐待防止という成果がこれらの指標に示された数字だけでは図れない部分があり、事業の効果を実証するのが難しい。

学校安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
学校の安全	3-①	《学校内の安全指導》 校舎内外で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-②	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施
	3-③	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施
	3-④	《交通安全指導》 ・学校による交通安全教育の実施 ・地域、保護者と連携した交通指導の実施
	3-⑤	《防犯教育の実施》 地域、保護者と連携した児童への防犯教育の実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

子どもたちの安全に対する意識の向上

校舎内や運動場等における学校のルールを理解し、守ろうとする意識が高まっている。また、学校内の怪我や感染症等の予防等に関する学校ごとの特色ある取組が広がってきている。

ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

いじめは絶対にしてはいけないと認識する児童の割合の増加

いじめの認知率向上と解消率向上に向けた取組等から、「いじめは絶対にしてはいけない」と答える児童の割合が増加している。いじめは、どの学校でも、どの子でも起こりうるという前提に立ち、積極的にいじめを認知しようとする教職員の姿勢が重要であり、そのような前提に立った日常的な指導が、児童生徒の認識の変化に影響しているものと思われる。

エ. 2020年度で最も積極的に取り組んだ活動

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校の影響で授業時数が削減されたことや、更なる感染拡大防止のための授業形態の制限等から、交通安全教室や避難訓練等、学校の安全に関する取組のほとんどが例年通り実施できない状況となった。市教育委員会としては、災害に関するものや、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するものなど、いくつかの児童向けリーフレットを作成し、各学校に配付することで、可能な形で安全教育の推進を呼びかけた。

オ. 分野横断的に行っていること

学校安全の取組の検証・改善サイクルの確立

全小学校を対象に「安全に関するアンケート」を実施し、各学校の児童の校内安全、交通安全、防災、いじめ、防犯の意識や態度の変容を確認するとともに、その分析結果を学校へフィードバックして、それを基に次年度の取組の全体計画の改善を図るような仕組みづくりを進めている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

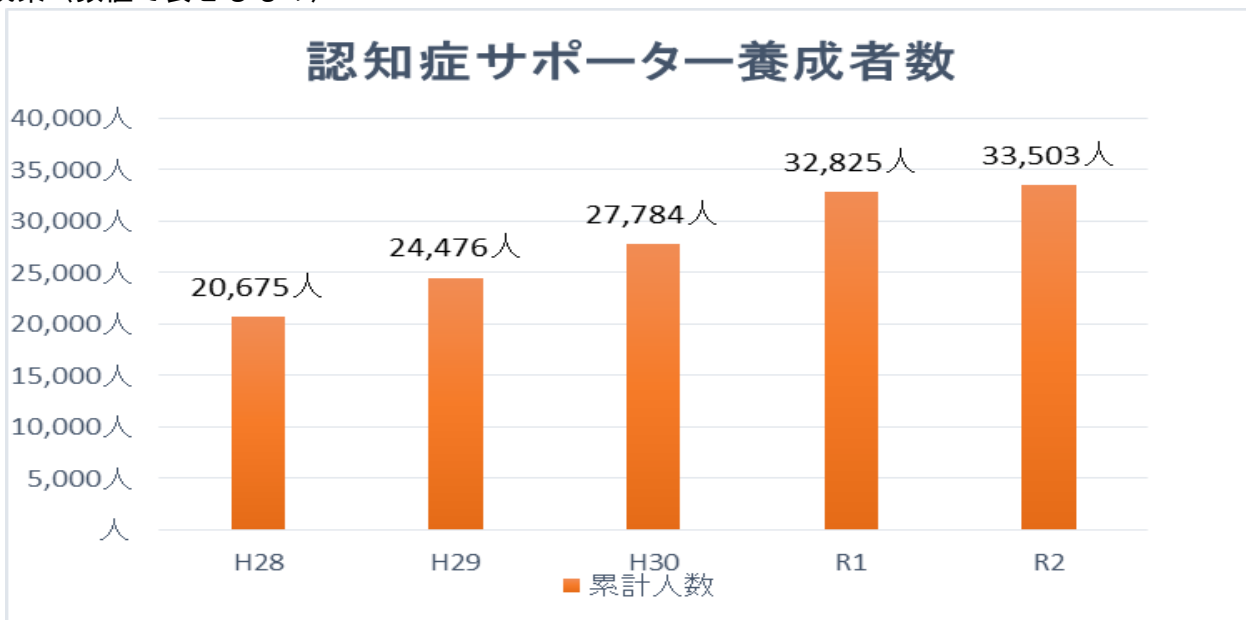
避難訓練等、災害から身を守る指導の強化

前述のとおり様々な制約の中で実践的な安全教育が十分に実施できなかった影響からか、災害時の避難に自信がないと答える児童の割合が若干増加した。依然として、コロナの影響から学校生活に制限がかかっている状況ではあるものの、そのような中において、いつ大地震や火災、水害等による被害が児童生徒の身に降りかかってもおかしくないという認識に立って、災害教育の充実に努めていく必要がある。

高齢者の安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
転倒予防	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
	4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
高齢者の虐待防止	4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
	4-④	介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修
	4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



※新型コロナウイルス感染症の影響により、R2 はサポーター養成講座の開催ができなかったため、養成者数の伸びが縮小。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

動画を活用した介護予防

コロナ禍においても、個人でフレイル予防として取り組めるよう、タオルDE こげんよか体操の方法や流れを分かりやすく説明した動画（4種類）を作成し、インターネットでいつでも視聴できるようにした。

地域の高齢者団体が継続して介護予防に取り組めるよう、定期的に活動しており、希望する団体に対し介護予防DVD（タオルDE こげんよか体操）の配布を行い、市図書館にも設置した。



【タオルDE こげんよか体操動画】

ウ. 令和2年度の取り組みで最も成功した事例

家族介護教室の開催

在宅での基本的な介護技術から介護者のストレスケアまでを行うことで、介護家族の支援を行うとともに、介護に関心がある人の介護家族に対する理解を深めるための講座を実施した。

R2年度に講座内容の一部変更を行ったほか、広報においても、市公式LINEを活用する等の見直しを行った結果、参加者数の増加につながった。

<講座内容>

全8回の講座を全て異なるテーマで実施した。

在宅介護で必要となる、高齢者にやさしい食事や認知症の方とのコミュニケーションのコツ、家族介護に伴うストレスへの対応などを介護福祉士、理学療法士、歯科衛生士等の専門職から学ぶ。



エ. 令和2年度で最も積極的に取り組んだ活動

介護予防のための地域の高齢者団体への活動支援

コロナ禍において、高齢者団体が集まるの介護予防活動実施が困難な中、感染対策の周知指導、専門家の派遣を行い、地域での介護予防活動の継続を促した。併せて、感染拡大防止の知識、対策の周知・啓発を老人クラブやいきいきサロン等を実施した。

	R1年度	R2年度
にこにこステップ運動 &スロージョギング	回数：149回 参加者数 延2,284人	回数：143回 参加者数 延1348人
口の元気アップ出張講座	回数：24回 参加者数 延387人	回数：12回 参加者数 延165人

コロナの影響により実施できなかった機関や感染対策により、人数を制限して実施。

継続的な介護予防の取組み

にこにこステップ運動教室において、教室の参加者に自主グループ化を促し、地域で継続的に介護予防に取り組む環境づくりを行っている。

オ. 分野横断的に行っていること

「高齢者の転倒予防パンフレット」を活用した普及啓発

保健所や民生委員をはじめ、老人クラブ等の関係機関を通じて配布している。

「くるめ見守りネットワーク」の実施

高齢者をはじめとする全ての市民が、地域において孤立することなく安心して暮らすことができるよう、「くるめ見守りネットワーク」を実施し、行政と地域や事業者が連携・協力して地域全体で見守り活動に取り組んでいる。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

コロナ禍における効果的な事業の実施

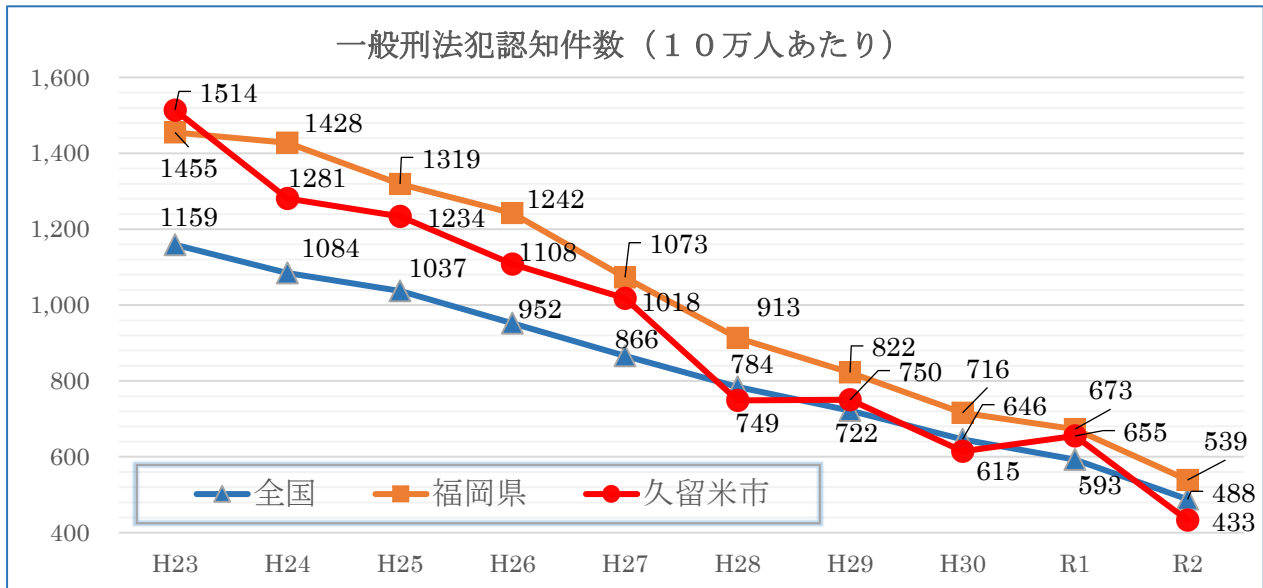
転倒予防につながる介護予防活動や虐待防止の研修、認知症に関する理解を深めるための取り組みについて、コロナ禍においても効果的に事業を実施できるよう取り組む必要がある。

防犯対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
犯罪の防止・防犯力の向上	5-①	自転車ツーロックの推進
	5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化
	5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備
	5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
	5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
	5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

ア. 成果〈数値で表せるもの〉

〔警察統計〕



久留米市の人口10万人あたりの一般刑法犯認知件数は、全国平均を上回っていたが、平成23年のセーフコミュニティ活動の取り組み開始以降、大きく減少し、令和2年は福岡県、全国を下回った。

イ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

地域の防犯体制の確立

平成18年から取組を推進してきた、青パトによる防犯パトロールが市内全域で実施されることとなった。

また、性犯罪や特殊詐欺の防止啓発を呼びかけながら、パトロールすることで、効率的な防犯パトロールに努めた。

SNS等を活用した新たな啓発活動

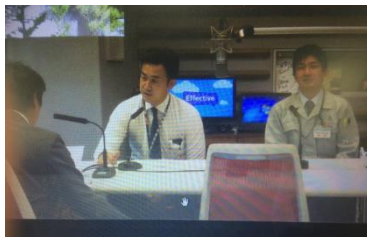
新型コロナウイルスの影響で、全国的にイベント等の自粛が求められるなか、啓発動画をYouTubeに投稿しSNSで発信した。また、ラジオ放送を活用して市民に暴力追放を呼びかける等、新しい啓発に努めた。

ウ. 2020 年度で最も積極的に取り組んだ活動

啓発方法の多様化、他分野との連携



SNSを活用した動画による啓発



ラジオ番組「知るっばくるめ」による啓発



テレビ(くーみんテレビ)による啓発



特別定額給付金に係る詐欺防止パトロール
※写真は出発式の様子



年末年始特別警戒出発式
(福岡県警、校区防犯協会との連携)



交通安全教室でツーロックの啓発
(交通安全との連携)

エ. 分野横断的に行っていること

- ・交通安全分野と連携した自転車ツーロックの啓発
- ・特殊詐欺・性犯罪防止対策（消費生活センター、警察、校区防犯協会、宅建協会など）

オ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

コロナ禍における啓発活動等について

今後、イベント開催時には、感染対策を徹底すると共に、メディアやSNSを活用した啓発を積極的に取り入れる。

性犯罪や特殊詐欺などの対策強化

全体の犯罪認知件数は減少しているものの、性犯罪や特殊詐欺の件数が横ばい傾向であることなどの問題がある。

青パトをはじめとする地域自主防犯活動や、防犯カメラ・防犯灯など防犯環境整備を推進する。また、警察や校区と連携し、タイムリーな情報提供を行うことで、犯罪の抑止を図る。

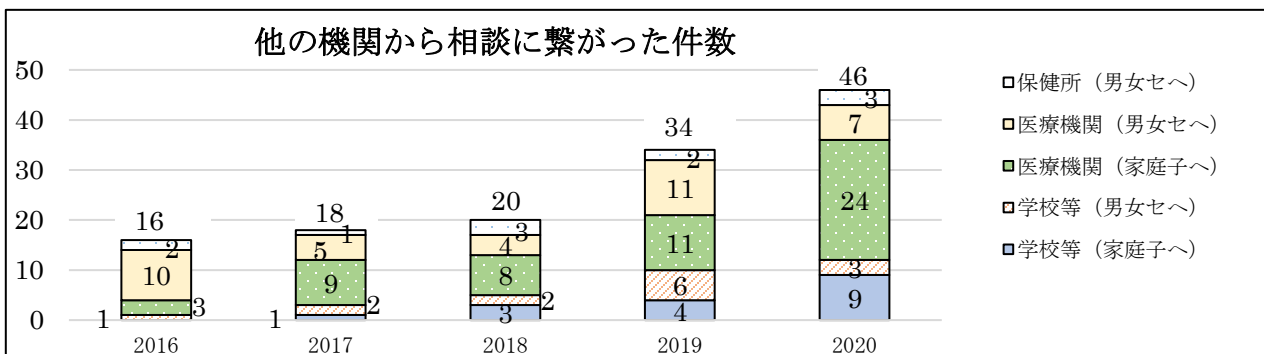
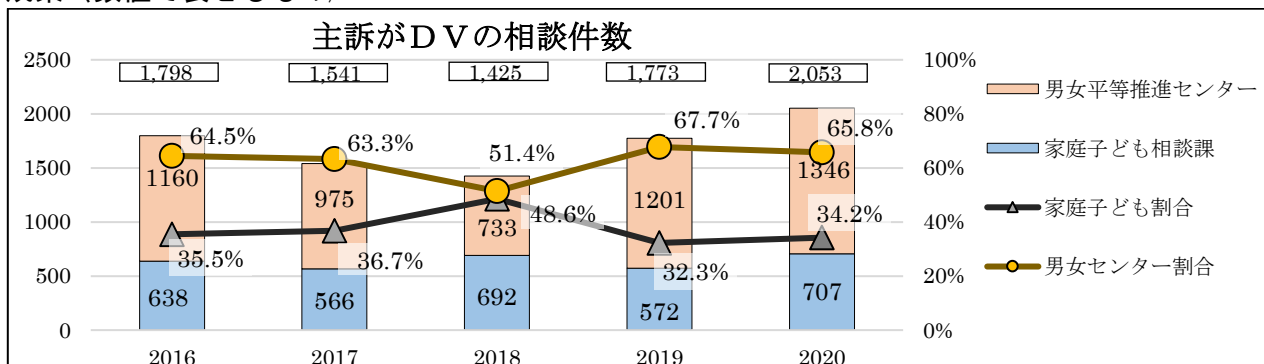
暴力団対策

福岡県警の「筑後地区暴力団集中取締本部」による総合的な取締りと連動し、公共事業やその他事務事業からの暴力団排除活動を推進すると共に、市民・事業者・関係団体が一体となり、暴力団壊滅の気運醸成を図る。

DV 防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
DV防止・早期発見	6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実
	6-②	教育現場等における予防教育の充実
	6-③	パープルリボンキャンペーンの実施
	6-④	医療関係者に対する研修の強化
	6-⑤	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

啓発しおりの作成及び配布

DVに対する意識の向上と相談窓口の周知を目的としてパープルリボンをあしらったしおりを作成し、下記の場所で配布した。しおり裏面には、市ホームページ上、DV関連ページへリンクするQRコードと久留米市相談窓口の電話番号を記載した。また、自殺防止対策委員会と連携し、同委員会作成の啓発しおりや相談窓口周知チラシを同時に設置した。

- 設置場所
- ・市立図書館（6館）、市民センター図書室（2箇所）
 - ・図書情報ステーション（男女平等推進センター）
 - ・パープルツリー設置場所
 - ・西鉄久留米駅、久留米シティプラザ、久留米警察署



啓発しおり
左：DV防止
右：自殺防止

SNSを活用した相談窓口の情報提供

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等や生活不安に伴うDV被害増加の懸念されたため、相談を促すチラシを作成し配布するとともに、久留米市公式LINE、くーみんテレビ、ドリームスFM等を活用し、効果的な相談窓口の周知を行った。

DV相談ポスターの作成・設置

DVに対する意識の向上と相談窓口の周知を目的としてDV相談ポスターを作成し、市内の大型商業施設に掲示した。ポスターには、市ホームページ上のDV関連ページへリンクするQRコードと久留米市相談窓口の電話番号を記載した。

ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

若年層への啓発を強化、パープルツリーを高校へ設置

令和2年度は、従来の大学等に加え、新に市内高校及び久留米大学の看護学部へパープルツリーや啓発しおり等を設置し、若年層に対してパープルリボンや暴力を容認しない意識づくりの普及啓発を行った。

- 設置場所
- ・市内高校3校（三井中央、久留米商業、南筑）
 - ・市内大学等5校
（久留米大学御井キャンパス・看護学部、久留米工業、聖マリア学院、信愛短大、久留米工業高等専門学校）



三井中央高校

エ. 2020年度で最も積極的に取り組んだ活動

パープルリボンキャンペーンの実施

今年度は「DVのないまちづくり宣言」から10周年であり、DV防止法が改正され児童虐待対応との連携強化が明記されたことから、今年度初めて男女平等推進センターのあるえーるピア久留米にオレンジ&パープルツリーを設置した。

児童虐待防止対策委員会と連携して、オレンジ&パープルツリーの設置を中心とした様々なキャンペーンを実施することにより、広く市民に女性に対する暴力をなくす運動とパープルリボンの普及啓発を行い、DV等の女性に対する暴力根絶の意識啓発に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染拡大の対応

男女平等推進センター広報誌の号外発行、広報くるめ、くーみんテレビ、ドリームスFM等で新型コロナウイルスの影響でDVの増加、深刻化が懸念されることと相談窓口の周知を行った。

オ. 分野横断的に行っていること

児童虐待防止対策委員会、自殺防止対策委員会との連携

- ・オレンジ&パープルツリーを設置し、児童虐待とDVは密接な関係があることを周知した上で、女性に対する暴力根絶の意識啓発を行った。
また、今年度より自殺防止対策委員会とも連携し、同委員会作成の啓発しおりや相談窓口周知チラシをツリーと一緒に設置し配布した。
- ・オレンジ&パープルリボンを作成し、11月児童虐待防止月間における警察と家庭子ども相談課の協働による久留米市庁舎内でのキャンペーン時に配布した（100個）。また、市職員全員の着用を促した。
- ・自殺防止対策委員会と連携し、同委員会作成の啓発しおりや相談窓口周知チラシをパープルツリー同時に設置した。

相談関係機関ネットワーク会議

相談支援に関する関係部局、関係機関、民間支援団体との連携

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

DV被害者を孤立させないための効果的なアプローチ

DV被害者が孤立しない、声を上げやすい環境づくりに向けて取り組む。

若年層の意識向上

子どもの頃からの教育の重要性を踏まえ、男女平等と暴力防止の視点に立った発達段階に応じてさらに進めていく必要がある。

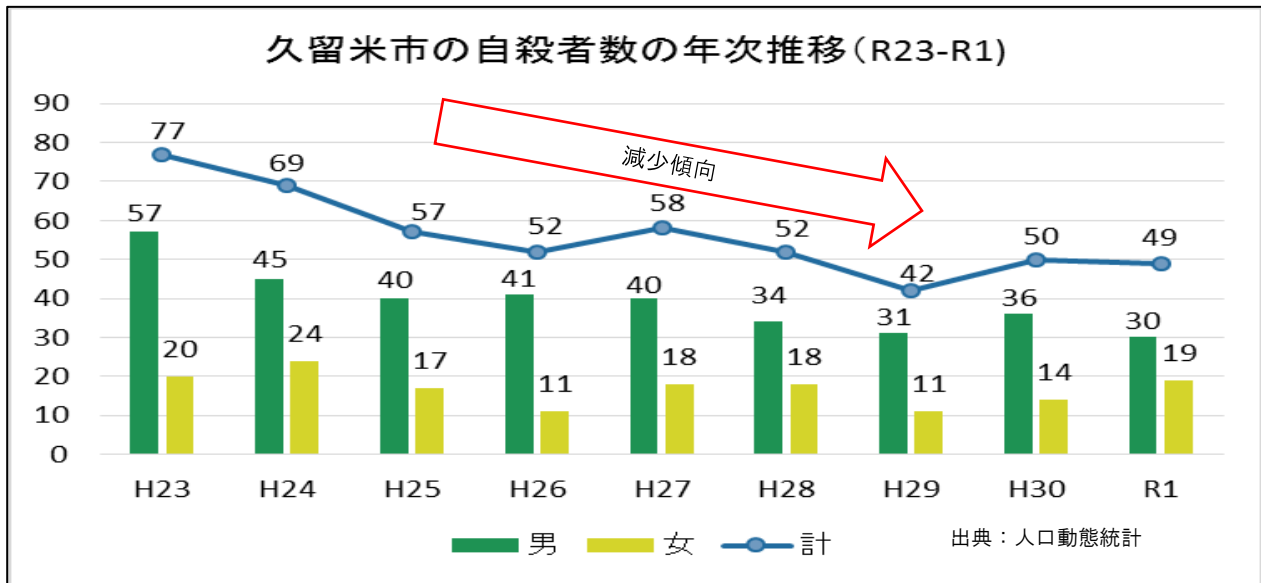
市民や団体等との協働

パープルリボンキャンペーンを通して、多くの市民にDV防止の意識啓発を図るために、多くの市民や団体等との協働で実施していくことが必要である。

自殺予防対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
自殺・うつ病の予防	7-①	自殺予防に関する普及啓発活動の実施
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化
	7-③	子ども・若者の自殺対策の推進
	7-④	民間団体と協働した相談の実施
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

ゲートキーパー・自殺予防の啓発活動の広がり

- ・地域におけるゲートキーパーや自殺予防の認識が深まった。市民団体等の活動も継続し、自主的な活動が行なわれている。
- ・児童・生徒向けに「SOSの出し方教育」を実施。SOSを受けとめる教職員への啓発を実施。

かかりつけ医・精神科医の顔の見える関係づくりとネットワークの強化

- ・「かかりつけ医と精神科医の連携システム（久留米方式）」として、認知が広がっている。

関係団体との連携強化

- ・自殺予防週間や自殺対策強化月間等に、関係団体と連携した啓発活動等を行った。
- ・民生委員やまちづくり連絡協議会、老人クラブなどを通じて地域住民への声かけ運動を行った。

相談体制の充実

- ・様々な相談に対応でき、より多くの市民が相談しやすいよう相談窓口が充実した。

自殺対策の課題と目標を関係機関で共有

- ・自殺対策計画策定2年目であり、関係機関と課題や目標を共有し、自殺対策の方向性を確認した。

ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事例

子ども・若者の自殺対策

- ・「SOSの出し方教育」を16校で実施。専門のプログラムやノウハウを持つ民間団体と連携し実施した。事業後のアンケートでも児童・生徒や教職員より肯定的な意見が多く聞かれた。
- ・長期休校明けに時期に、児童・生徒、保護者、教職員向けにそれぞれ啓発チラシ・カードを配布。

関係機関と連携した普及啓発活動

- ・コロナ禍による影響で直接的な啓発に制限があった中、関係団体と連携してポスター貼付や啓発物の窓口設置等の啓発活動等を行った。
- ・民生委員やまちづくり連絡協議会、老人クラブなどを通じて地域住民への声かけ運動を実施。

かかりつけ医と精神科医の連携強化

- ・毎年開催している研修会は新型コロナウイルス感染拡大により、DVDを配布して教材学習に切り替えて実施。コロナ禍におけるメンタルヘルスについての認識を深めた。

エ. 2020年度で最も積極的に取り組んだ活動

コロナ禍における自殺対策

- ・新型コロナウイルス感染拡大による社会情勢の変化に伴う自殺者数の増加を懸念し、5月の緊急事態宣言解除後より従来の自殺対策に加えて、休校明けの小中高生と保護者・教職員への啓発、働く人へのこころのケアの啓発チラシの配布などを関係機関と連携して取り組んだ。

「くろめ “いのちを守る” プロジェクト」

- ・10月の自殺者数増加を受け、市民からのメッセージの発信、庁内の関係課や地域団体と連携した声かけ運動、SOSの出し方教育の追加実施、こころの相談カフェの増設などを実施した。

オ. 分野横断的に行っていること

関係機関等と連携した活動

- ・司法書士会やハローワークと連携した相談会、民間団体へ相談窓口の委託
- ・生活自立支援センター相談窓口での、様々な関係機関と連携した対応
- ・関係機関と連携した啓発活動、ゲートキーパー研修等の実施
- ・SOSの出し方教育の民間団体への委託

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

コロナ禍における自殺対策

- ・コロナ禍による経済・生活面への影響の長期化が懸念される。引き続き社会情勢の動向と自殺者数の推移を注視してタイムリーでかつニーズにあった自殺対策を展開する。

中高年男性への取組

- ・中高年男性が相談しやすい体制を構築していく。また、職域団体等と連携し、職場におけるメンタルヘルス対策の取組みを進める必要がある。

ゲートキーパー・自殺予防に関する知識の浸透

- ・正しい知識を持つ市民の増加、ゲートキーパーの認知度上昇。

支援体制の充実

- ・適切な医療や支援を受けられる体制の整備。
- ・地域の相談体制の更なる充実。
- ・関係機関相互の連携した相談支援。

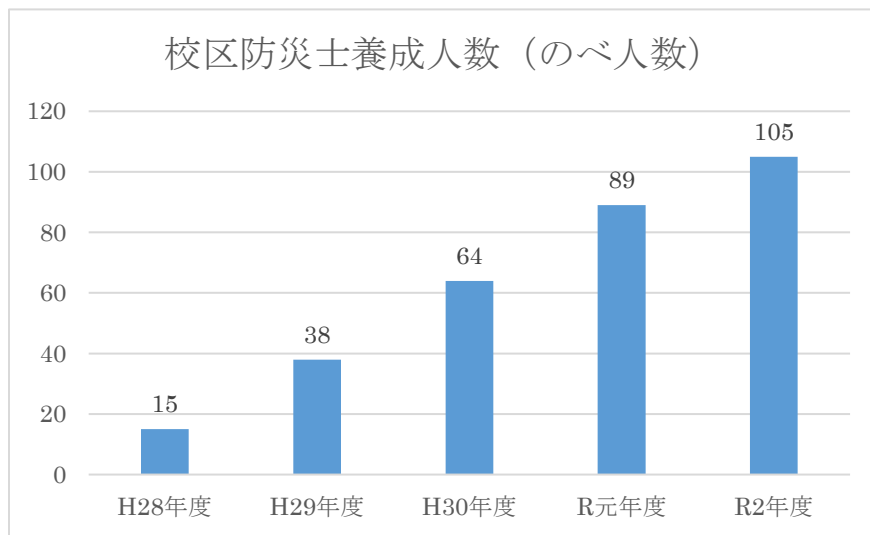
子ども・若者の自殺対策の推進

- ・自殺が死因の第1位である、子ども・若者へ向けた自殺対策の推進。

防災対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
地域防災力の向上	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施
	8-②	防災に精通しているリーダーの育成
	8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進
	8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実
	8-⑤	地域の避難計画を作成

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

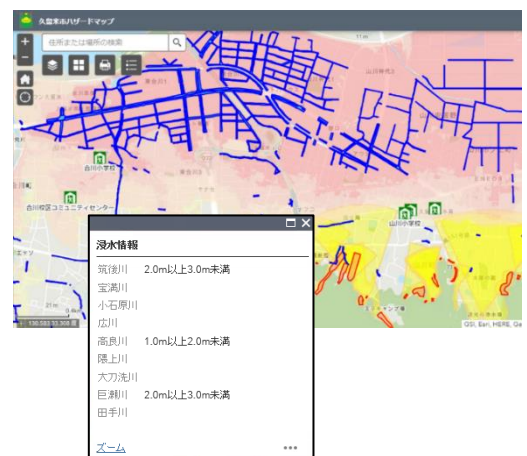
WEB版ハザードマップの運用開始

これまで配布していた紙面版ハザードマップに加えて、新たにWEB版ハザードマップの運用を開始。パソコンやスマートフォンを利用して、市内全域の危険箇所や指定避難所を見ることができ、避難判断マップ、土砂災害ハザードマップ、道路冠水注意マップの3種類を重ね合わせて表示することができ、外出先や土地勘のない場所での避難所の検索や浸水区域の確認利用が可能になった。

WEB版ハザードマップへのアクセスは平均して1日300程度のアクセスがあっている。

本システムは、クラウド上にサーバがあり、アクセス数に応じてサーバが自動で増強される仕組みとなっているため、アクセスが集中しても稼働する環境が整備されている。

令和2年7月豪雨の際には、1日あたり約2万件のアクセスがあったが、システムは問題なく稼働した。



ウ. 2020年度の取り組みで最も成功した事

防災リーダー研修会の開催

昨年度開催した防災リーダー研修会で、受講期間の長さ(平日コース5月から12月)と、受講時間の長さ(1日2コマ実施)が課題としてあがっていた。

今年度は受講期間を9月から12月までの4ヶ月間、1日1コマまでにし、受講しやすい環境を整えたため、昨年よりも多くの方に参加していただくことができた。

防災リーダー養成数
令和元年度 59名 → 令和2年度 86名

防災スキルアップ研修

2月に開催を予定していたが、緊急事態宣言が延長になったという事もあり、3月に校区まちづくり連絡協議会や市民活動サポートセンター、各校区の協力のもと ZOOM での開催に変更した。受講者は個人のスマートフォンやパソコン、校区コミュニティセンターへ行き受講。ZOOM での開催に変更したことにより、217名の参加者となった。

エ. 2020年度で最も積極的に取り組んだ活動

防災の啓発について

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、災害時の避難に際しては分散避難や在宅避難の奨励をおこなった。災害時に開設する避難所では、「3つの密(密閉、密集、密接)」が重なりやすく新型コロナウイルスの感染リスクが高くなると考えられるため、避難所への避難以外にも、親戚や知人宅、ホテル等の分散避難を奨励し、避難所に行くだけが避難ではないということの啓発をおこなった。



セーフコミュニティ通信 6月発行

オ. 分野横断的に行っていること

- ・ 防災対策課、地域福祉課、久留米広域消防本部による自主防災研修
- ・ 防災対策課、地域福祉課による避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練
- ・ 久留米市社会福祉協議会と久留米大学ボランティアサークルとの連携 (行政と地域の協働)

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

8-① 定期的な防災研修・訓練・啓発の実施

- ・ 幅広い世代への啓発
- ・ 自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知

8-② 防災に精通しているリーダーの育成

- ・ 各校区で養成した防災士、防災リーダーが地域で活躍するスキルや環境が整っていない

8-③ 避難行動要支援者名簿の登録推進

- ・ 名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知
- ・ 避難行動要支援者の支援体制構築

8-④ 避難行動要支援者個別支援計画作成

- ・ 図上訓練未実施校区での訓練実施
- ・ 各校区における継続的な訓練実施
- ・ 避難行動要支援者本人の訓練や個別支援計画策定への参加
- ・ 特にハイリスクな避難行動要支援者の個別支援計画の具体化

8-⑤ 地域の避難計画の作成

- ・ 自主防災マニュアル全校区作成
- ・ マニュアルを活用した訓練の実施

② その他の取り組み実績（セーフコミュニティ推進協議会事務局で実施したもの）

協議事項(1)②

網掛け部分は広報啓発活動



実施時期	取り組み等名称	備考
令和2年4月～6月	対策委員会（書面協議）の開催	※1：日めくりカレンダー
令和2年4月～	セーフコミュニティ日めくりカレンダー配布※1	新規配布先：市内金融機関、薬局（令和元年度標語入選者作品掲載分）
令和2年5月20日	ドリームスFM「知るっば久留米」出演	
令和2年7月1日 ～9月30日	セーフコミュニティ標語募集	応募作品1,574作品（過去最多）中、12作品を入選作品として選考し、作品を掲載したカレンダーを作成。カレンダーは令和3年1月から久留米市公式LINE等でセーフコミュニティ通信と同時配信。※2 標語応募者には参加賞としてオリジナルエコバッグを渡し啓発。
令和2年8月1日	広報くろめ掲載（1ページ）※3	セーフコミュニティ標語募集／セーフコミュニティの魅力（日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事インタビュー）
令和2年8月7日 ～8月28日	セーフコミュニティ推進協議会（書面協議）の開催	※2：LINEでのカレンダー配信
令和2年10月7日 ～10月16日	セーフコミュニティ標語一次審査	各対策委員会等事務局の所管課長等
令和2年10月19日 ～10月30日	セーフコミュニティ標語二次審査	各対策委員会等の代表者
令和2年10月21日	セーフコミュニティ事務局担当課長会議の開催	新型コロナウイルス感染症の影響下での自殺の増加傾向に関する情報共有
令和2年12月19日	セーフコミュニティ標語表彰式※4	市役所くろみホールにて
令和2年12月21日 ～12月22日	対策委員会事務局と日本セーフコミュニティ推進機構との意見交換（ヒアリング）	
令和3年2月～4月	対策委員会・外傷等動向調査委員会の開催	
毎月21日	セーフコミュニティ通信の発行	年12回発行
通年	出前講座の開催	実績：1団体14名（新型コロナウイルス感染拡大のため例年より大幅減）



※4：標語表彰式

